＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉜ー自分の確信を捨ててはいけない』　武田真治牧師

ハバクク書 ２：１～４　ヘブライ書 １０：３２～３９

このヘブライ書はおもにユダヤ教徒からクリスチャンになった人たちに向けて書かれているのですが、その書かれた目的はその人たちを“励ます”ためでした。それは彼らがいまだに後にしてきたユダヤ教からの誘いかけや迫害を受けていたからでした。当時、ユダヤ教徒を止めることは社会から追いやられる（＝村八分）ことを意味したのでした。以上の状況が今日の箇所の背景にあります。即ち、「あなたがたは、光に照らされた後、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してください。あざけられ、苦しめられて、見せ物にされた」と。

ここで「光に照らされた」とは、明らかに伝道者パウロのことと重ね合わされています。パウロもまたユダヤ教徒からキリスト教徒になった人物でした。彼はクリスチャンたちを迫害しようとダマスコという街へ向かう途中に、天からの光に照らされイエス様の声を聞き、回心したのでした。このパウロと同じように、ヘブライ人たちの上にも各々に形は違うけれども“キリストに出会った＝光に照らされた”と。そしてその「後」に待ち受けていたことが、受洗に対する迫害や反発でした。にも拘わらず、彼らは洗礼を受け、クリスチャンになっていったのです（＝「苦しい大きな戦いによく耐えた」）。その「初めのころ」を思い出してほしいと。その上で「だから、自分の確信を捨ててはいけません。」と語り掛けているのです。この「確信」という言葉は原文では（パレーシア）です。言葉の成り立ちとしては（すべてを語る）という意味になります。そこから「大胆に（語る）」とも訳されます。つまり、その信仰を持った頃の信仰を公に告白した“大胆さ”を指しているとも考えることができるのです。

私自身、今振り返ると、洗礼を受けた頃はまだ何も知らなくて、神様のことも信仰のことも分かっていなかったなと思い出します。それなのによく受洗を決心したものだと。確固たる根拠も自信もなかったけれども、イエス様を信じて生きて行こうという思いだけは強くありました。それがまさにここで言われている“大胆な確信”ではないでしょうか。それを「捨てるな（原文は「自ら切り離して投げ捨てる」）」と命じられているのは、あの頃は何も分かっていなかったから、あの思いや信仰も、洗礼も間違いだった、若気の至りだったと考えるな、その頃の信仰を自分で否定するなということでしょう。むしろ、そんな私たちをキリストは招いてくださり、ご自身に繋げてくださったことを「捨てるな」と。信仰の出発点として「光に照らされた」出来事として「思い出して」ほしいと。それが苦しい時、厳しい状況に立たされた時に自分の“支え＝励まし”となるのだからと！最初の信仰の原点を捨ててしまったら、今なぜ信じているのか、信じ続ける理由まで見失ってしまうということでしょう。気をつけたい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．11月30日（水）20：00
Ⅱ．12月1日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　婦人会を覚えて
担 当 者：　（水）岩井　（木）佐伯
祈りに覚える人：　東さん　　阿部さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男　19　　女　55　　計　74
祈祷会　Ⅰ．男6　女2　計8　　Ⅱ．男4　女10　計14
日曜学校　　幼稚科　15　　小中科　13　　計28
ひつじ雲の会　男0　女5　　計5

【次週礼拝】　１２月　４日（日）

聖　書：　詩 編　３３：１～１１
ヘブライ人への手紙　１１：１～３

説　教：「ヘブライ㉝ ― 信仰とは何か？」
武田 真治 牧師

讃美歌：２４２(1と2)、２４０(1)、３２(1)、179(聖歌隊)、
４５３(1と2)、４０２(1と2)、８１(1)、３７(1)

【次週当番表】

司式:飯田長老　奏楽:羽倉　礼拝:岩佐長老
配餐;相浦　茨木　岩佐　金刺
金刺　各長老
献金：矢崎　山田　　受付：西尾　森本
会堂準備：浅井　阿部　齋藤　山田
看板：保坂　　週報：岩佐　　お花：森本

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・長老会　・会堂管理委員会　聖歌隊練習

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１１月　２７日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/